



あきつ



第11号
令和7年7月7日
校長 田上 明男

教師も熱い！

子どもも熱い！！ ～授業に参加して～

先週の1日(火)に3年生の授業に参加しました。事前に担任から話があり、「本物の校長先生から話をしてもらえれば、子どもたちの興味・関心・意欲も高まるはず」ということでした。勿論、そのような願いであればと二つ返事で承諾しました。

授業(教科書)の内容は、こうです。栄養士が給食便りを2つ作成しました。それぞれに伝えたいこと(どちらも子どもたちに必要なこと)が違い、それに伴い資料や記述の仕方も異なる2つの給食だより。それぞれのよさを見出し、自分なら…こっちのお便りがいいかなと理由を付けて、話し合い、書き方を身につけていく学習です。

今回、担任は授業の設定として、子どもたち一人ひとりを『校長』にしました。そして校長同士の小グループで話し合い(校長会)を開き、「給食だより」について協議していくというもの。なかなか面白い設定で、興味を引きまします。どんな協議になるのか私も興味津々でした。これは今年度の本校の校内研修のテーマ「子どもが主役の授業づくり～『考える・つながる・挑戦する』姿を目指す授業改善プロジェクト」に沿ったもので、担任が児童の実態に合わせて、授業を創意工夫・改善していく取り組みです。

さて、授業の話に戻ると…。子どもたちは、事前に2つの『給食便り』を読み込み、自分の考えをまとめてノートに書いていました。そして、理由を示しながら「こちらの『給食だより』がよいと思う」と発表していました。全体で出し合った時も、それぞれによい部分があり、聞いていた子どもたちも自分と違う視点からの考えに「なるほど…」と納得したり、改めて考えたり、真剣な表情でした。

結論から先に言うと、「どちらがいいのか?」…この問いに正答はありません。子どもたちが主体的に考え、判断し、こちらの便りがよいのではないかと結論づけることが重要です。『校長会』の中で、一人ひとり意見(考え)を言うことで、相手の思いを受け止め(分かり)、自分の考えとの違いを比較しながら、考えを深めていくことが大切です。(学習指導要領に示された『対話』です。)

最後に私が話す時間になりました。「私も『学校だより』を書いています。その時に気をつけていることを今から話しますね。…」そう言って、タブレットで示しながら話をさせてもらいました。子どもたちも真剣に、時にはうなずきながら聞いてくれました。(嬉しかったです)「今回の授業でみなさんは、一人ひとり『考え』ました。そして今日、グループで発表したり、聞いたりすることで『つながり』ました。あと残っているのは、『挑戦する』ことです。ぜひ自分でも友だちに向けてお便りを書いて発信してください。係とかあるのかな?(子どもたち、うなずく) その係として、みんなに伝えたいことをお便りにして、発信してください。」



授業の最後に振り返りを書く子どもたち

今回紹介した3年生に限らず、全教職員が、『子どもたちの主体的・対話的な学び』が深まっていくように児童の実態を見極め、創意工夫をしながら、学習活動や日常の活動に取り組んでいます。それは、これからの予測困難な時代を生き抜くために、子どもたちにとって必要な力(自ら考え、行動する力)を育成するための活動です。これからも『教師も熱く、子どもたちも熱く』進んでいきます。

保護者の皆様へ ～「酷暑期における給食献立の一部変更について」のお知らせ～

本日、すぐーでもお知らせをしておりますが、今年は梅雨明けが早く、酷暑が続く中、食中毒へのリスクが高まっている状況です。そこで、子どもたちに安全安心な学校給食を提供するため、7月の献立を一部変更いたします。保護者の皆様のご理解をお願いいたします。詳しくは、本日配信のすぐーをお読みください。